図書館だより

２０１７春
No. 243
調布市立図書館

水木しげる氏

表紙絵

＝行くぞ！みんな＝

表紙絵：水木しげる

・ 調布市立図書館は平成28年6月10日に開館50周年を迎えました！ ・・・・ 2～3
・ 平成28年度子どもの本に親しむ会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4～5
・ 高校生通信『Prime～高校生の今～』ができました！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
・ 平成28年度利用者懇談会を開催しました／ 映画の図書展 ・・・・・・・・・・・・・ 7
・ 地域ゆかりの歴史・文化・伝統（最終回） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

※音声版をご希望の方は図書館へご連絡ください。

調布市立図書館は平成２８年６月１０日に開館５０周年を迎えました！

記念事業のご報告をいたします！

５０周年記念キャラクター「じろ」の誕生

調布市立図書館の５０周年を記念して生まれた「じろ」は，市の鳥メジロをモデルにしています。職員の名札や印刷物のほか，「としょかんめぐりシールラリー」やブックカバー，ぬり絵など，様々なところに登場しました。

宮の下分館では，夏休みと冬休みに子ども室の書架に隠されたじろの絵を探す**「じろさがし」**を実施し，のべ**４０９人**が参加しました。たくさんの方に「じろ」を知っていただくとともに，図書館を利用するきっかけにもなりました

ぼくのＬＩＮＥスタンプもできました！
使ってみてくださいね。

イベント

- **味の素スタジアムファン感謝デーへ参加**（２０１６年６月１１日）
- **５０周年記念調査報告会**（２０１６年１０月１５日：文化会館たづくり会議室）
  講師：古橋研一氏（郷土史家）「多摩川を渡って来た禅寺丸柿」
- **５０周年記念展示会**（２０１６年１０月１５日・１６日：文化会館たづくり会議室）
- **としょかんめぐりシールラリー**（２０１６年１０月１５日～２０１７年３月３１日）
- **５０周年記念講演会**（２０１７年３月１８日：文化会館たづくり大会議場）
- **共催事業５０周年企画展**（２０１７年１月３１日～２月２日：文化会館たづくり北ギャラリー）
  「子どもによりそって６０年　西野みのりがのこしたもの」

〈５０周年記念展示会の様子〉

懐かしい写真や昔の図書館用品を展示し，図書館の５０年間の歩みを振り返ることができました。

ご来場者のアンケートでは，図書館で出会った本についてや，家族で図書館に通ったことなど，お一人お一人の図書館の思い出をお寄せいただきました。

また，同時開催の５０周年記念調査報告会「多摩川を渡って来た禅寺丸柿」の展示では，知られざる郷土の歴史を興味深く見つめる方々の姿が見られました。

記念グッズ

・鬼太郎しおりの配布

図書館全館で，名誉市民故水木しげるさんのイラストと図書館からのメッセージが入ったしおりを配布しています。

水木しげるさんは，昭和６３年から７年間に渡って，「図書館だより」に調布の風景を描き続けてくださいました。描き下ろしは終了しましたが，水木プロダクションの協力を得て現在でも水木さんのイラストが「図書館だより」の表紙を飾り続けています。

・ブックカバー，ぬり絵の配布

味の素スタジアム感謝デーや５０周年記念展示会では，「じろ」のイラスト入りのブックカバーやぬり絵を配布しました。中央図書館では子どもたちが色をぬった作品が飾られています。

布の遊具　大きなかぶ

５０周年を記念して，全長約１５０ｃｍ，大人が一人では抱えきれないくらいの大きなかぶを製作しました。７月から１１月まで各図書館を巡回し，展示やおはなし会を行いました。

〈大きなかぶ製作風景〉

大きなかぶを作ってくださったのは，調布市立図書館で活動されている布の絵本製作グループ「ふかふか屋」のみなさんです。

５０周年記念誌

５０年という節目にふさわしく，多くの資料や写真を入れて編集中ですので，どうぞお楽しみに！

５０周年記念写真集

図書館の誕生したころの写真を中心に，初めて写真集にまとめました。

図書館全館で所蔵しておりますので，懐かしい図書館の姿をぜひご覧ください。

調布市立図書館は，開館から５０年，いつでも・どこでも・だれでも図書館サービスを利用できることを目標に活動してきました。これからも市内の１１館が，暮らしに寄り添う図書館サービスを充実させていきます。

平成28年度　子どもの本に親しむ会

「このよろこびをあのこに」

講師　小宮（こみや）　由（ゆう）氏

平成２８年１１月１７日（木）に，講演会「子どもの本に親しむ会」を開催いたしました。毎年，子どもの本に興味をお持ちの方に多数ご参加いただき，好評を得ています。今年度は，子どもの本の翻訳家・編集者の小宮由氏を講師にお迎えし，「このよろこびをあのこに～子どもと本の出会い～」というテーマで講演をしていただきました。

講演の内容を一部紹介いたします。

・絵本は，子どもが初めて出会う文学だ。だから，読んでいて面白くない絵本は文学的に優れているとは言えないし，絵だけが良くても意味がない。優れた絵本の絵とは，おはなしの内容をうまく補い，耳から入ってくる以上の想像力を掻き立てるもの。優れたおはなしとは，子どもが経験したことを反芻できたり，経験したことのない世界へ連れて行ってくれたりするものだ。

・私は本を作る時，２つのことを伝えたいと思っている。１つは，人の喜びを我が喜びとし人の悲しみをわが悲しみとすること。子どもは本を読む時，その本の主人公になりきって，実生活では味わえないような事柄や気持ちを，我がことのように経験する。自分ではない他人の心をたくさん持つことで，相手の気持ちが分かるようになり，心が豊かになる。もう１つは，幸せとは何かということ。私が伝えたい幸せとは，子どもたちが模倣したいと思うような理想像に出会うことだ。

・私には，核・芯になる人物がいる。それは祖父の故・北御門（きたみかど）二郎だ。祖父はトルストイの本を読んで絶対非暴力の思想に目覚め，徴兵を拒否した人物で，戦後はトルストイ文学を翻訳した。高校３年生から大学生の頃，トルストイを読んで，人間とは，神とは，生きるとはということを必死に考えた。そして進路を決める時に，初めて親が「竹とんぼ（子どもの本の専門店）」をやっていることに気付いた。「竹とんぼ」でやっていることと，トルストイが言いたいこと，本当に素晴らしい本の根底にあるものは同じだと気付いて，そこで自分は出版社に行って子どもの本を作ろうと志した。祖父やトルストイの想いを，子どもの本を通じて伝えたいと思っている。

・家庭文庫「このあの文庫」は，２００４年から杉並区阿佐ヶ谷で毎週土曜日にやっている。図書館があまりなかった時代に，その代わりとして家庭文庫が作られたが，最近は家庭文庫の存在意義が変わってきた。一人一人の顔を見て丁寧に本を手渡せるシステムを育てることと，人間関係が希薄になっている時代に，地域の人が集える場になっているということだ。

・本を選ぶ際は，①絵本と赤ちゃん絵本を分けて考える，②親が好きな本を選ぶ，③本を通して豊かな経験ができるという３点を基準にしてほしい。赤ちゃん絵本は，子どものための「文学」というより，わらべ歌や手遊び歌を知らない若い親世代のための「道具」として使うものだ。また，読んであげる人が楽しめないと，子どもにもそれが伝わるため，まずは自分が読んで楽しい本を選んでほしい。そして，その本の主人公になりきって読み終えた時に，どれだけ豊かな人生経験を与えてくれるか，という見方で本を見てみることも１つの手だ。

・読み聞かせをするときは，大げさに声色を変えないように注意してほしい。おはなしより声が気になってしまうからだ。また，本を楽しんだ子がその場で借りたり買ったりできるように，現場にある本を読む。読んでいるときは，子どもの派手な反応だけで本を判断しないように気を付けてほしい。「ウケ」を狙った本ではなく，心から喜びがあふれて笑いが起こる本，または読み終わった後シーンとなる本が，その子の心のひだに残る。そして，読み終わった後は，無理やり感想を聞かないようにする。本当に感想が言いたい時は子どもたちの方から言ってくるので，そういう時は黙って聞いてあげてほしい。

・最近の子どもは塾や習い事など本当に忙しい。しかし，子どもを一人にしてあげる時間も必要だ。子どもは一人でいる時に，自分の内側の世界を意識して，心を律したり，自分のあるべき場所を理解する。子どもが本を読むとき，聞くときもまた，同じだと思う。私は，自分が手がける本によって，または自分が手渡す本によって，その子のあるべき姿，いるべき場所にその子を導いて，心の秘密の場所を育んであげたいと思っている。

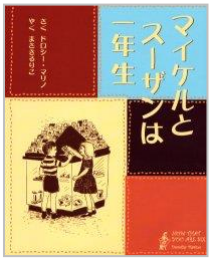
講演の冒頭では，小宮さんが詩を読んで会場が静まり返る瞬間があり，言葉の持つ力を感じました。絵本とはどのようなものか，子どもたちにおはなしを手渡す大人はどうあるべきなのかを考える会となりました。

小宮　由（こみや　ゆう）氏

翻訳家・編集者。１９７４年、東京に生まれる。小学校から大学までを熊本で過ごし，大学卒業後，児童書版元に入社。２００１年にカナダへ留学。帰国後，いくつかの版元を経て現在に至る。
＜阿佐ヶ谷の家庭文庫「このあの文庫」ブログ＞
http://konoano.tumblr.com/

◆◇◆主な編集・翻訳作品◆◇◆

『空とぶじゅうたん』
マーシャ・ブラウン再話・絵
松岡享子訳（アリス館）



『マイケルとスーザンは一年生』
ドロシー・マリノさく
まさきるりこやく（アリス館）

『ハリーとうたうおとなりさん』
ジーン・ジオンぶん
マーガレット・ブロイ・グレアムえ
小宮由やく（大日本図書）

高校生通信
「Ｐｒｉｍｅ～高校生の今～」
ができました！

●「Ｐｒｉｍｅ～高校生の今～」とは●

高校生世代の「記者」たちが、記者の目線で普段感じていることや思ったこと、調べたことなどを記事にした小冊子です。2016 年 12 月に創刊号を発行しました。今後、年３回（春・夏・冬）発行する予定です。

市内各図書館で配布しているので、ぜひお手に取ってご覧ください。

「テレビなどのメディアで取り上げられる高校生と、実際に調布市で生活している高校生がどう違うか、またはどこが同じか、ということをこの冊子から感じていただけたら嬉しいです。
原稿を書いているのは高校生ですが、大人の方にも、高校生より下の世代にも楽しく読んでいただけるよう努力していきます。」

（編集長・千種さん）

創刊号（2016 年冬号）ごあいさつ　より

●記者募集●

市内在住もしくは在学で、中学校を卒業したおおむね１８歳以下の高校生世代の方ならどなたでも参加できます。興味のある方は、編集会議にご参加いただくか、中央図書館 Prime 担当へお問い合わせください。（電話：042－441－6181）

入会申込書は各図書館のカウンターで配布しています。また、調布市立図書館ホームページから印刷もできます。記入後に図書館へご提出ください。

●平成２９年度　編集会議日程●

第１回	平成２９年７月９日（日）	午前１０時～１２時
第２回	平成２９年１２月１０日（日）	午前１０時～１２時
第３回	平成３０年３月１１日（日）	午前１０時～１２時

平成28年度　利用者懇談会を開催しました

平成２８年１１月２４日（木）に文化会館たづくり１０階学習室，１２月１日（木）に図書館緑ケ丘分館おはなし室で，午後２時から２時間余にわたって実施しました。

「新ぴゅー太（館内検索パソコン）を使いこなそう」と題して，今年度９月に行ったシステム入れ替えにともない新しい機能を追加した「ぴゅー太」の講習会を開催しました。インターネットから図書館の本をよく予約されて，システムの変更点に興味を持って参加してくださった方，便利になったと感じた機能を挙げてくださった方，検索方法を覚えたくて参加してくださった方など，皆様熱心に耳を傾けてくださいました。

意見交換の部では，第１回には，調布市立図書館のボランティアを担っていただいている方々にも参加していただき，普段の活動から出た貴重なご意見をいただきました。第２回には，熱心な利用者から，予約多数の本に対する図書館の対応や，地域資料の話題があり，活発な意見交換の場となりました。

いただいたご意見・ご要望を，今後の図書館サービスに活かして参ります。

映画の図書展

平成２９年３月８日（水）から１２日（日）まで，調布市と（公財）調布市文化・コミュニティ振興財団主催で「調布映画祭２０１７」が開催されました。図書館は，文化会館たづくり２階北ギャラリーで「映画の図書展」を行いました。

今年の展示メインテーマは，「図書館５０周年特別企画　５０年前に誕生した映画」でした。調布市立図書館が誕生した１９６６年頃に公開された映画のポスターや５０年前に発行された大映新聞等の貴重な資料を数多く展示しました。

また，「映画と音楽」というテーマで，作曲家の伊福部昭氏と木下忠司氏を取り上げ，二人が携わった作品のスチール写真やプログラムなどを展示しました。

その他，図書館所蔵の映画関係資料を多くの来場者にご覧いただきました。

地域ゆかりの歴史・文化・伝統

多摩川のアユ漁

井　上　明　枝

自然の幸が豊かな多摩川は釣りや水泳，舟遊びなど多くの人々をたのしませてきましたがアユも昔から有名でした。清流にのって秋に海に下り，プランクトンを食べ成長して春に戻ってくるアユ。「６月１日の漁の解禁日は両岸が釣り人で埋まったもんだ」と古老はなつかしみます。羽毛や昆虫に似せた擬餌針（ぎじばり）を使うドブ釣り，縄張りを守るアユの習性を利用し生きたオトリに掛け針をつけて引っかける友釣りが一般的ですが，本職の漁師は投網（とあみ）で５～６人が川幅いっぱいに適当な間隔を置いて船を並べて次々に網を打ちました。

「調布市史下巻」によると，江戸時代には幕府へ「上ヶ鮎」と呼んで村々が献上していました。明治６年（１８７３）には上石原１名，下石原７名，布田小島分１名，下布田４名のほか国領と上ヶ給が村請でアユ漁に従事しています。漁法は鵜（う）縄網（なわあみ），提灯網，釣竿，舟打網の４種類でしたが鵜を使った漁は，その後姿を消していったようです。

多摩川漁業は農家の副業的な形で続きますが，大正期に入ると漁師主業３戸，７年には５戸となり，アユのほかコイやウナギの漁獲量もぐんと増えました。多摩川流域の水産業者の組織化が進み漁業組合が設立されて漁場の管理が行き届くようになり，漁法の統一，禁漁期も設定されたこと。同時に鉄道や甲州街道を利用した東京郊外のレジャーが盛んになって，アユ漁には観光的な魅力も高まったのです。

調布では多摩川沿いにアユ料理店が開店し料亭が並びました。料亭では屋形船を仕立てて客に川遊びを楽しんでもらい，アユ漁期には本職の漁師を呼んで投網を披露，座敷に戻ってアユ料理をたっぷり味わってもらいました。（調布百年史）

竹内武雄著「郷土の七十年」（昭和５４年刊）には，大正末頃の多摩川の情景が次のように書かれています。「調布小学校の原育夫先生と学生の白鳥さんと私と三人で夏休み中，天気さえよければアユ漁に行った。てんから網を薫森釣具店から買い，大きなビクを下げ黒ふんどしにシャツで川

に行った。薫森さんから教わったとおり三人で掛声と同時に石を投げてアユを網に追い込む。なんとも子供の遊びみたいな漁だが，案外，たくさん捕れた。小さいのは網の目から逃げてしまうので五寸から六寸（１５～１８センチ）の大きいのが三十数尾も捕れた。当時の多摩川は川底まで見えて，キレイな流れで，背の立たない深いところも銀色に光るアユがよく見えたよ」。

高度成長期には工場や生活排水で川は汚れましたが環境整備が進み清流とアユが戻りました。現状について多摩川漁業組合副会長の佐藤忠義さんに話をうかがいました。調布会員は３０人で投網は続けられており昨年は稚魚２８万７５００尾を多摩川に放流しました。漁場の整備には力を入れ川底の石洗いも実践しているそうです。釣り料は１日５００円，年間２５００円。毎年夏休みには国土交通省京浜河川組合事務所主催で調布の多摩川の河川敷で「水辺の学校」を開きアユの天ぷら試食会が行われています。

刊行物番号
２０１６－１９５

図書館だより　第２４３号

平成２９年３月２５日発行　［庁内印刷］
発行　調布市立図書館
〒182-0026　東京都調布市小島町2-33-1
℡　042-441-6181
http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/